

# グローバル・スタディーズ学科

矢口 洋生  
榎石 多希子  
砂澤 健治  
アンソニー・スミス  
植竹 由美子

大本 泉  
賈 軍  
高橋 泉  
高橋 早苗  
加藤 美紀

熊谷 健二  
山田 恵  
熊谷 治子

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ ヤ グチ ヨ ブ 氏 名 矢 口 洋 生	職 名 教授 人間学部 GS 学科	取 得 学 位 平和研究修士 (大学名) ゴーシェン・ビブリカル・セミナー <span style="float: right;">(取得年月)1986 年 5 月</span>
------------------------------	----------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・学生の理解度を知る工夫	2012 年 4 月～	学生がどの程度授業を理解しているのかを確認するために、また同時に、授業内容に対する意見や質問を限られた時間のうちに考えて表現する練習の機会としてリアクションペーパーを書かせている。ペーパーに対する返答は後続する授業の中で扱われる。また集積されたペーパーは学期末に個人毎に束ねて評価に反映される。
・英語チュートリアルクラスの実践	2013 年 4 月～	2013 年よりスタートしたグローバル・スタディーズ学科の新しい試みとしてチュートリアル形式の授業が始まった。これはマンツーマンあるいは 2 人 1 組の学生に対して行う授業で、学生の習熟度や理解度、習熟スピードに応じて内容や方策を対応させるスタイルの授業である。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文] 「聖戦と平和——聖書に脈打つ平和のベクトル」	単	2016.3	新教出版社・福音と世界			13-18 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本キリスト教文学会 東北英文学会 東北アメリカ学会	東北支部事務局長(1990～)支部長(2006～)	1989 1989 1991

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

--

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ    マキイシ タ キ コ 氏 名      槇 石 多 希 子	職 名    教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取 得 学 位    博士（教育学） （大学名）      東北大学 <span style="float: right;">（取得年月） 2005 年 3 月</span>
--	-------------------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 3・4年生ゼミ(人間発達総合演習 I・II、)におけるサービス・ラーニングの展開と地域貢献	2008.4～ 2014.10	<p>① 3 年次の人間発達専門演習ゼミの学生と共に、大学近隣の鶴ヶ谷（高齢者率が仙台市内第 1 位の約 4 割）をフィールドとして、地域の活性化の一環として、イベントのスタッフ参加及び学生企画の講座を開催した。講座を開始するにあたり、市民活動団体「元気会」（250 名の構成員のうち 70 歳以上が 7 割以上）の理事の方々と当地区の地域特色、成立過程及び現在の課題を探るために、交流を兼ねた勉強会を持ち、また、学生が企画する「20 歳の頃に」の趣旨を練り上げた。学生の主体性や意思決定を重視し、サービス・ラーニングの手法を取りながら、世代間交流による実践的な学びの活動として講座を位置付けた（2014 年度）。</p> <p>② 「女性のライフコースと健康」をテーマに、学生と地域のメディア、行政、NPO 等が主催する乳がんに関する「ピンクリボン活動」に学生と共にスタッフとして参加・指導し、女性の病気や健康への実践的な活動を促している（2015 年度は GS 学科の学生が参加予定）。</p> <p>③ 2011 年度ゼミの共同テーマは「東日本大震災と大学」として、仙台市・NPO など地域の諸団体のシンポジウムに積極的に参加し、特に直接的な被災地にある石巻専修大学に出向いて、学生と意見を交換した。また、「東日本大震災と女子学生」調査（本学学生対象）を実施し、大学祭においてゼミの共同研究として報告した。</p>

<p>2. 東北大学教育学部社会教育主事講習講師</p>	<p>2005.7～</p>	<p>このように、3・4年次の演習をサービスラーニングの手法による教育実践として、また地域との連携の教育・学習として位置づけて展開している。</p> <p>(2012年度及び2013年度はゼミを開講しなかったが、①の活動は、有志の学生と共に継続した)</p> <p>東北大学教育学部は毎年7月下旬から8月中旬の期間に、宮城県、山形県、福島県の三県にわたる小・中・高校教員及び自治体職員に対して、社会教育主事講習を実施している。その中の特論として、「ジェンダーと社会教育」「男女共同参画と市民参加」等の講義を2005年から担当している。真の実質的な両性の平等・人権の尊重の視点に立つ社会教育・成人教育の展開の重要性を講義している。ここで得られた現職教員たちから、本学の学生指導にも生かせる知見・情報を得ている。</p>
<p>3. 「キャリア専門演習」及び「NGO・NPOインターンシップ」の開講とアクティブ・ラーニングによる学習展開</p>	<p>2008.4～2014 2015.4～</p>	<p>・この授業は、2年次以降の各学科の特色に応じたキャリア形成のスタートとして位置づけられており、担当者の所属する人間発達学科では3・4年次には「キャリア専門演習」（通年2単位）を2008年度に新設し、担当している。2011年度以降は、(財)せんだい男女共同参画財団の事業である「若者のための市民活動体験」事業を積極的に取り入れに学生と共に参加している。また、2015年度からは「NGO・NPOインターンシップ」を開講し、国際交流や支援をミッションとするNPOにおける実践的な学びをインターシップの入門と位置づけて、活動への参加を促している。</p> <p>・「英語で遊ぼう・学ぼう・つながろう」講座の開催（アクティブ・ラーニングの実践）GS学科3年次科目「NPO/NGOインターンシップ」の受講生を中心に、近年の子ども英語への関心の高まりを、講座の企画・実施を通して学習した。地域の幼稚園児～小学校3年生の子どもたちを対象に、本大学近隣の市民センターで実施した。学生はチラシ・ポスターの制作・配布、講座教材づくり、ゲーム・工</p>

		<p>作の試作、歌・踊り・紙人形の聖劇の練習などを共同の学習課題とした。このような児童英語やアート活動などスキルやアイデアの詰まった実践活動をアクティブ・ラーニングとして指導した（2015年度）。</p> <p>・GS学科3年次科目「NPO/NGO インターンシップ」は、本学の中国と台湾の留学生5人を対象に「白百合をもっと知ろう」というテーマのもとに、グローバル講座を企画した。特に、このうちの2人は来日してから日も浅く、興味深いイベントであったようだ。パワーポイントで写真を取り込み本学沿革の説明を作成したり、スズメ踊りの由来と踊りで芸能文化を披露した。日本語を取り入れたゲームなどは、本学科の学生もスムーズにいかんかったりで、爆笑しつつ友好を深めた（2016年度）。</p>
--	--	--

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 希望への社会教育—3.11 後の社会のために	共著	2013.9	東洋館出版社 303頁	手打敏明 他17名		360頁
2. 対人支援職者の専門性と学びの空間 —看護・福祉・教育職の	共編 著	2015.12	創風社	高橋満	7名	287頁
[論文]						
1. ゲル集落における世帯形成と家族生活—モンゴル・UB市の事例	共著	2010.3	『日本都市学会年報』43号	高橋他2名		21-45頁

2. 精神障害者の社会参加を支える支援ネットワークの形成	共著	2012.3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要『人間の発達』第8号	高橋満		155-172 頁
3. 震災とアート教育の可能性	共著	2013.9	東洋館出版社	高橋満		337-359 頁
4. 社会変動下における高学歴女性のライフコースと学歴・文化資本(I) -中国・外国語大学日本語学科1983年卒業生の事例-	共著	2015.3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要『人間の発達』第10号	李篠平、廣森直子、高橋満		37-57 頁
5. 地域社会への参加と「生活に埋めこまれた学習」 -「国際結婚」をした外国人女性の定住過程-  [調査報告書]	共著	2015.3	仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要『人間の発達』第10号	南紅		59-75 頁
1. 社会変動下における貧困化のプロセスと成人教育実践—絶望の淵からの報告	共著	2010.10	東北大学大学院教育学研究科	高橋他4名		62 頁
2. 社会教育・生涯学習辞典 福祉社会、フィランソロピー、社会福祉ミックス、自助組織、ソーシャルサービス等10項目,単独執筆	共著	2012.12	朝倉書店		日本社会教育学会	674 頁

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本家族社会学会		1988. 10
日本教育社会学会		1998. 5
日本社会教育学会		1999. 5
日本都市学会		2000. 9

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
文部科学省	2007-2010 年度	科研費基盤研究(B)	福祉国家の変容と生涯学習施設のガバナンスの再編 (研究分担者)	1,600,000
文部科学省	2011-2013 年度	科研費基盤研究(B)	対人援助職者の専門職アイデンティティ形成とジェンダー (研究代表者)	4,250,000
仙台白百合女子大学	2014 年度	学内共同研究(A)	社会変動・文化資本と高学歴女性のライフコース—日本と中国の比較を通して (研究代表者)	990,000
日本学術振興会	2012-2015 年度	科研費基盤研究(B)	コミュニティワークの社会教育的アプローチの構築に関する理論的・実践的研究 (研究分担者)	1,500,000
日本学術振興会	2015-2017 年度	挑戦的萌芽的研究	地域づくり三職種の連携・共同の実践モデル (研究代表者)	1,500,000
文部科学省	2015-2019 年度	科研費基盤研究(A)	社会教育における防災教育のグローバル展開 (研究分担者)	
文部科学省	2016-2020 年度	科研費基盤研究(B)	ポスト福祉社会の地域づくりにおける社会教育的アプローチに関する理論的・実証的研究 (研究分担者)	



### 3. 特記事項

#### [他大学非常勤講師]

東北福祉大学 「家族社会学」「現代の社会教育Ⅱ(女性問題と社会教育)」(2000～2014)

山形大学 「家族関係学」(2005～現在に至る)

東北大学 「社会教育と男女共同参画」(東北大学社会教育主事講習)(2008～現在に至る)

仙台青葉学院短期大学 「家族論」(2015～2016)

#### [社会的活動]

1. 仙台家庭裁判所調停委員(1996～2003,2007～2013.3)
2. 宮城県勤労者福祉推進会議委員(1998～2003)
3. IDE 民主教育協会東北支部実行委員(2000～現在に至る)
4. 塩竈市男女共同参画推進協議会(会長)(2001～2010.3、2014～現在に至る)
5. 宮城県男女共同参画審議会委員(副会長)(2002～2012.3)
6. 仙台市公民館運営審議会委員(副会長)(2003～2009)
7. 特定非営利活動法人「イコールネット」理事(2003～2014)
8. 宮城県固定資産評価審議会委員(2010～現在に至る)

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	スナザワケンジ 砂澤健治	職名 人間学部	教授 グローバル・スタ ディーズ学科	取得学位 (大学名)	文学修士 東北学院大学  (取得年月) 1987年3月
------------	-----------------	------------	--------------------------	---------------	--------------------------------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 「ヨーロッパの歴史と文化Ⅰ」における視聴覚授業の実践	2014.4	中世ヨーロッパの歴史・文化の理解のため、海外で制作されたシリーズもののDVDの活用。
2. 「言語文化論Ⅰ」「言語文化論Ⅱ」における視聴覚授業の実践	2016.4	BBC制作の「ことばのルーツを求めて」や、「書物5000年」(丸善)などのVHS教材の活用。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 『英語史研究ノート』	共著	2008.12	開文社出版		田島松治・末松信子 編	125-128, 180-182 頁
2. 「Late ME における ‘neck’ の同義語について — <i>hals</i> , <i>neck</i> と <i>swire</i> を中心に —」 『片平五十周年記念論文集—英語英文学研究』	単著	2015.3	金星堂出版		片平会編	240-250 頁
[論文]						
1. 「ME <i>roust</i> の用法について」	単著	2011.2	英語英文学論叢『片平』 第46号			1-8 頁

2. 「 <i>The Canterbury Tales</i> の <i>The Reeve's Tale</i> における 'camus nose' について」	単著	2014.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 18 号			1-8 頁
3. 「Cotton Nero 詩群における 'flower' の類義語 — <i>blom, blosme</i> と <i>flour</i> について — 」		2016.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 20 号			11-18 頁
[その他] 1. 「鈴木榮一先生流の英語学と英語教育」		2014.3	『東北学院大学英学史年報』 第 35 号			23-29 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 「14 世紀英語における『顔』を表す言葉について」『OE と ME の文法と語彙— 限定性と指示性を中心に』シンポジウム講師	2014.8	片平会 50 周年記念大会(名古屋工業大学)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本中世英語英文学会	東支部幹事(2006.4 - 2010.3)	1984.7
日本英文学会		1990.5
日本英語学会		1994.11
西洋中世学会		2008.9
片平会		1996.4

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

1. スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SELHi) 運営指導委員(於:茨城県立高萩高等学校) 2006.4.-2009.3.

#### 2. 学会活動

- ① 日本中世英語英文学会東支部 第 24 回大会 研究発表司会(杏林大学) 2008.6.28
- ② 日本中世英語英文学会 第 25 回全国大会 研究発表司会(慶応義塾大学) 2009.11.28
- ③ 片平会 第 46 回夏季研究会 研究発表司会 (神戸:みのたにグリーンスポーツホテル) 2010.8.9

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ アンソニー・スミス 氏 名 アンソニー・スミス	職 名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取 得 学 位 修士(文学) (大学名) 立正大学 (取得年月) 1979年3月
---------------------------------	-------------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
English IA	2015～	グローバルスタディーズ学科 English IA で使用する独自の問題集の作成に取りかかっている。
世界の神話 I・II	2015～現在	世界の神話 I・II において、過去に使用していたプリント教材をまとめ、独自の教材編集に着手している。
シネマ・イングリッシュ(Professional English)	2006～	公開講座において2回にわたり、独自のプリント教材を使用して「シネマ・イングリッシュ」の授業を行った。「シネマ・イングリッシュ I・II (現 Professional English)」では、この経験を踏まえ、これまでのプリント教材をより充実させて、活用していきたい。
英語による授業	2006～2015	「オーラル・イングリッシュ」との差異化を図る目的で、国際教養学科における特色ある科目の一つとして「英語による授業(セミナー・イン・イングリッシュ)」の開講を提唱した。世界の歴史や文化をテーマに、ディスカッションを含め授業を展開していくことを目指している。

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
[論文]						
1. ウィリアム サローヤンー作品を支えた宗教観	単著	1997.9	仙台白百合短期大学 カトリック研究所論集第3号			
2.映画フィールドオブドリームズにみる「啓示・予言・復活」	単著	1998.2	仙台白百合女子大学紀要 第2号			
3.「癒し」への昇華—映画「フォレストガンプ」の場合	単著	2000.1	仙台白百合短期大学 カトリック研究所論集第4号			
4.映画 Driving Miss Daisy 異文化を巡る—考察—アメリカンマイノリティーの抗争と接点—	単著	2010.3	仙台白百合女子大学紀要第 14号			

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
1. How & Why Encyclopedia	単訳	1975.3	Field Enterprises			
2.“A Lifetime”by Hatsuo Kitamura	単訳	1992.3	“Poetry Nippon”Nos.100			12-13 頁
3.“The Sudden Shower”by Hisashi Honda	単訳	1993.3	“Poetry Nippon”Nos.101&102			33 頁

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
[講演]		
1.やさしさの表現—外国と日本—	1997.11	小牛田町文化会館(宮城県古川市民委員研修)
2.英語論文の書き方(1)題目の付け方、要旨・緒言に関する表題と組立て	1997.12	(社)日本セラミック協会(於:東京工業大学) セラミック英語セミナーにおいて講座担当
3.やさしさの表現—外国と日本—	1998.2	多賀城市社会福祉センター 多賀城市中央 T 区及び西部地区民生児童委員・多賀城市福祉事務所関係職員
4.英語論文の書き方—日・英語表現の違い—	1998.11	(社)日本セラミック協会(於:京都工芸繊維大学) セラミック英語セミナーにおいて講座担当
5.英語論文の書き方—Plagiarism について—	1999.11	(社)日本セラミック協会(於:東京工業大学) セラミック英語セミナーにおいて講座担当
6.日常生活を彩る聖人たち	2000.1	仙台白百合女子大学・短期大学カトリック研究所 (於:仙台白百合女子大学) オープン・セミナー「カトリック的人間教育—新世紀をめざして」
7.共生としての教養	2001.6	仙台白百合女子大学・短期大学 公開講座「国際化時代における教養とは」
8.リーダーとしての心構え	2004.2	宮城県市町村自治振興センター 研修指導者フォロー研修
9.共生の時代—親と子のコミュニケーション—	2004.6	多賀城市文化センター
10.学都仙台サテライトキャンパス・リカレント講座 (英語によるビジネスコミュニケーション)	2005.9～10 (全5回)	高等教育ネットワーク仙台
11.学都仙台サテライトキャンパス・ネットワーク講座 (シネマ・イングリッシュ:「ローマの休日」を題材に)	2006.6～7 (全7回)	高等教育ネットワーク仙台

12.学都仙台サテライトキャンパス・ネットワーク講座 (シネマ・イングリッシュ:「お熱いのが好き」を題材に)	2007.9～10 (全5回)	高等教育ネットワーク仙台白百合女子大学
13.オンキャンパス社会人講座 (シネマ・イングリッシュ:「カサブランカ」を題材に)	2008.9～12 (全8回)	仙台白百合女子大学
14.オンキャンパス社会人講座 (シネマ・イングリッシュ:「フォレスト・ガンプ」を題材に)	2009.9 (全8回)	仙台白百合女子大学
15.士官対象「社会講座」	2012.3	陸上自衛隊・仙台駐屯地
16.オンキャンパス社会人講座 (シネマ・イングリッシュ:「ローマの休日」を題材に)	2012.5～6 (全8回)	仙台白百合女子大学
17.士官対象「社会講座」	2013.7	陸上自衛隊・仙台駐屯地
18.士官対象「社会講座」	2013.9	陸上自衛隊・仙台駐屯地
19.士官対象「社会講座」	2014.1	陸上自衛隊・仙台駐屯地
20.士官対象「社会講座」	2014.5	陸上自衛隊・仙台駐屯地
21.学都仙台サテライトキャンパス・ネットワーク講座 (シネマ・イングリッシュ:「若草物語」を題材に)	2014.11 (全5回)	高等教育ネットワーク仙台
22.士官対象「社会講座」	2015.2	陸上自衛隊・仙台駐屯地
23.学都仙台サテライトキャンパス・ネットワーク講座 (シネマ・イングリッシュ:「フォレスト・ガンプ」を題材に)	2015.9 (全4回)	高等教育ネットワーク仙台
II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)



Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

1991.4 ROTARY INTERNATIONAL 国際ロータリー 第2760区 常任選考委員(～1995.3)
1994.4 宮城学院女子大学 非常勤講師(～現在)
1995.4 石巻専修大学 非常勤講師(～2008.3)
1998.4 東北大学文学部 非常勤講師(～2000.3)
1998.4 日本大学通信教育部 スクーリング担当講師(～2000.3)
2001.4 東北学院大学文学部 非常勤講師(～2006.3)
2002.4 日本育英会 宮城支部 第一種奨学生予約採用面接官(～2005.3)
2004.4 仙台市泉警察署協議会委員(～2007.3)
2009.4 ラジオパーソナリティ「ラジオ3朝ワイド モーニングシャッフル トニートークス(英会話コーナー)」(～2013.3)

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ウエ タケ ユ ミ コ 植竹由美子	職名 任期付特別専任教授	取得学位 (大学名)
人間学部		グローバル・スタディーズ学科	修士(学術) 東北学院大学 (取得年月) 1998.3

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
① 教育内容・方法の工夫 ビジネス・インターンシップの計画・実施・事前事後指導	2017年度	学生に満足度の高いインターンシップを提供するために、特に、学生の基本的実務能力の開発と自己分析・自己学習課題の分析、実習内容に関する企業側との情報交換、個人面談、マッチング、実習終了後の報告会の実施およびプレゼン・報告書作成指導等に力点を置いて取り組んでいる。
② 作成した教科書 『ビジネスワーク総論』	2003.3	学生が将来ビジネス現場で知識を応用し、業務を遂行、達成するために必要となる、企業組織・活動、コミュニケーション能力、キャリア形成、能力開発等に関する基本的知識・スキルについて解説したテキストである。
<i>Enjoy Business English!</i>	2004.2	従来のビジネス英語がカバーしてきた範囲を超え、来客・電話対応からビジネスレター、ファイリング、プレゼンテーション、レジユメの作成等まで広範囲に取り上げ、ビジネス英語をより幅広く、そしてより楽しく修得できるように工夫したテキストである。
『ビジネスとオフィスワーク実務演習』	2005.1	新時代のオフィスワーカーに求められる知識と技能について、ビジネスマインドを根底において分かりやすく解説したテキストである。
<i>Business English for Beginners</i>	2014.2	海外企業との取引をストーリー化し、そこで使用される基本的なビジネス英語表現および心得ておくべきビジネスマナーについて取り上げ、解説したテキストである。各章ごとにロール・プレーイングやケース・スタディ、練習問題を豊富に用意し、学生が実際の場面で活用できるように工夫した。

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. ビジネスワーク総論	共著	2003.3	同文書院		中村健壽編著 他7名	127-140 頁 (全 163 頁)
2. <i>Enjoy Business English!</i>	共著	2004.2	三修社	芳野総子		8-23,44-63,71 -72 頁 (全 77 頁)
3. ビジネスとオフィスワーク実務演習	共著	2005.1	樹村房		水原道子編著 他8名	65-80 頁 (全 143 頁)
4. <i>Business English for Beginners</i>	共著	2014.2	三修社	芳野総子 遊佐重樹		8-27,29-32,36 -38,40-42,44- 46,68-73 頁 (全 81 頁)
[論文]						
1. これからの職業能力開発の在り方 —訓練内容 と効果的な教授法を中心として—	単著	2004.5	技能と技術第 226 号			15-20 頁
2. キャリア教育としてのビジネス・インターンシップ	共著	2006.1	仙台白百合女子大学紀要 第 10 号	浅野浩子		89-104 頁
3. 地方都市における公的機関主導による人材育 成支援事業 —仙台市産業振興事業団の独自 性—	共著	2008.9	実践経営第 45 号	浅野浩子		111-118 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 地方都市における公的機関主導による人材育成支援事業 —仙台市産業振興事業団の独自性—			2007.9	実践経営学会第17回全国大会		

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本秘書学会	1987.4～1989.3 関東・東北ブロック運営委員	1982.5 ～ 1996.4
実践経営学会		1995.4 ～ 現在
日本国際秘書学会		1995.4 ～ 現在
日本秘書教育学会		1995.4 ～ 2010.5
日本ビジネス実務学会(日本秘書学会より改称)	1997.6～2005.5 関東・東北ブロック運営委員	1996.5 ～ 現在
	1997.6～2001.5 評議員	
	2001.6～2005.5 監事	
日本語教育学会		2009.11～ 現在

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

#### (非常勤講師)

- 1 東北外国語専門学校秘書科非常勤講師(1989.4～2002.3):「秘書学」「文書実務」「人間関係論」
- 2 岩手県立大学盛岡短期大学部非常勤講師(1999.4～2017.3):「ビジネス実務総論」「ビジネス実務演習」

#### (研修会指導)

- 1 山形県保育所新任保育職員研修 (1999年度～2004年度):「社会人としてのマナーについて」
- 2 山形県社会福祉施設新任職員研修 (2002年度):「社会人としてのマナー」
- 3 雇用・能力開発機構宮城センター委託訓練 (2002年度～2009年度):「ビジネス実務 ～効果的な自己表現～」
- 4 仙台市外郭団体協議会接遇基本研修(2006年度)
- 5 仙台高等裁判所平成26年度男女共同参画研修(2014年度):「キャリアデザインについて」

#### (委員)

- 1 (財)日本秘書協会秘書エッセイ・コンテスト審査委員 (1997.7～2016.7)
- 2 全国大学実務教育協会加盟・課程審査委員会委員 (2001.4～2008.7)
- 3 (財)大学基準協会相互評価委員会専門評価分科会委員 (2006年度)
- 4 BJT ビジネス日本語能力テスト問題作成委員(2012.6～2013.3)

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	オオモト イズミ 大本 泉	職名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 (大学名)	修士(文学) 日本女子大学 (取得年月) 1984年3月
------------	------------------	------------------------------	---------------	------------------------------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 多様化した学生のニーズに即した授業内容(日本語表現Ⅰ・Ⅱ、日本語と日本文化等)	2010. 4～	<p>就職に直結する日本語力や表現力、日本語検定等の資格取得の学習を授業に求める学生が、年々増えている。そのような学生のニーズに応えるような授業内容を展開している。また、担当講義の中で、収集した知識から自分の見解を構築し、発信する演習も加えた。書くことのみならず、プレゼンテーションの技術を学び、人前で発表する実践等のアクティブ・ラーニングを導入した。</p> <p>授業の内容が理解できているかどうかを学生自身が確認するために、授業の冒頭で、前回の授業内容の理解度を確かめる小試験を実施した。文章の添削もして、客観的な解答のみならず、担当者自ら記述した文章の答案例もプリントして配布し、それと学生が自習したものとを比較させた。文章の添削もできるだけ対応している。</p>
2. 教科書の執筆	2011. 3	<p>大本泉・後藤康二・千葉正昭編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』(2011年3月、初版、明治書院)</p> <p>担当する「日本語教育Ⅰ」(必修科目)・「日本語教育Ⅱ」(選択科目)を受講する学生が、学習内容の系統が理解できるように、そして予習・復習がしやすいように、教科書を作成した。基本的な日本語力・表現力を養うこと、そして現代社会の諸問題について考察し、自分の考えをもって、それを発信するという目標をたてて作成した同編『日本語表現 演習と発展』(2007年3月、初版、明治書院)から発展させ、後半部のとりあげる現社会問題のとくに現代性に留意して見直し、全面的に改稿した。</p>
	2011. 9	<p>大本泉・後藤康二・石出信正・北條博史・四ツ柳隆夫・千葉正昭編『小説の処方箋 ―小説にみる薬と症状―』(2011年9月、初版、鼎書房)</p>

		<p>担当する「文学」の授業は、共通科目である。健康栄養、福祉、心理関係の学生も文学に興味をもつように、薬や病気をとおして文学作品を読む方法での教科書を作成した。</p>
3. 映像による学習の動機づけ	2014. 9	<p>大本泉『作家のごちそう帖』(2014年9月、初版、平凡社) 担当する「日本の社会と文学」において、日本近代における食文化と作家・文学への受講生の興味を喚起するために、執筆した。</p>
	2014. 9	<p>大本泉・後藤康二・二木文明・北條博史・千葉正昭編『神経症と文学 —自分という不自由—』(2014年9月、初版、鼎書房) 文化的背景と連動する「神経症」の描かれている作品群をとりあげて執筆した。2015・2016年度の共通科目「人間と文学」に使用した。</p>
4. 資格取得の動機づけ	2010. 4～	<p>文系学科の場合、〈大学〉という学び舎の四年間は、徹底的な文献講読の方法修得という学習目標があると思われる。他方、研究対象の領域によってはヴィジュアルな方法をもって研究を推進していくべきものも生じてきた。文学の授業では、作家の閱歴をコンパクトにまとめたビデオ鑑賞で知識を増やしたり、映画になったDVDを鑑賞し、その後で原典の文芸作品との比較検討をさせたり、日本文化の授業では、歌舞伎・能等の伝統芸能やコミック・アニメーション・コスプレ等に関するDVD、映像、写真等をパワーポイント等で導入し、教員の一方的な解説・講義に終始しないように、ディベートとレポート執筆等の展開によって、理解力・判断力・プレゼンテーション能力等の学習の深化をもはかった。</p>
	2013.4～	<p>日本語表現の授業におけることばの習得の一指針として、2002年から漢字検定受験を薦めてきた。若干の学生が3級を取得して入学しているものの、文章表現の基盤となる正しい日本語を理解するためにも、高校卒業程度の力を要する2級を薦め、その内容を分析・解説し、模擬テストも行った。2013年4月からの授業では、文部科学省の助成を獲得している日本語検定受験を薦め、同検定3級問題の紹介・解説と模擬試験を実践している。グローバル・スタディーズ学科の学生には、後援会からの助成を得て、原則として4年間の内に3級合格を目標とするように促している。2014年度からは、同学科の日本語教員養成課程受講者は、全員3級取得を目指して受験を原則として必修とすることにした。2014年度後期は、筆者</p>

<p>5. 日本語教育</p>	<p>2014. 4～</p>	<p>が、授業外の昼休みに受験予定者を集め、計 8 回模擬試験を実施し、解説した。その結果、団体受験校として、2015 年度学内受験者は 43 名、2016 年度学内受験者は 42 名である。</p> <p>本学では 2006 年度から本格的に「日本語教員養成課程」たちあげに向けて、準備を進めてきた。担当する「日本語教育実習」では、2009 年度から現在まで提携校の韓国釜慶大学校日語・日文学部にて毎年実習し、日本語教育と文化交流を重ねている。</p> <p>さらに同年8月から東日本大震災前まで、夏休み中、宮城県・岩手県に在籍するAFS留学生を本学内に招いて日本語講座を展開し、日本語教育と国際交流の成果をあげることができた。AFS留学生の評価が高く、さらに毎年6カ国以上の留学生に日本語を教授する経験を得た本学の学生にとっても有意義な学習だった。なお、ロンドン大学における日本語教育関係者の間でも、この実習方法の評価は高かった。</p> <p>2014 年度は、新たに、提携校の山西大学商務学院大学にて教育実習を実施することができた。</p> <p>2012 年度から日本語教育とボランティアをかねた試行として学内留学生を対象とする日本語Tutorsを募り、指導と実践を重ねている。</p> <p>本学の学生の状況いかんによっては、実習先の拡大を計っている。2017 年度以降は、開南大学(台湾)からも日本語教育実習の受け入れを快諾いただいている。</p>
<p>6. 海外での教育</p>	<p>2016.3～</p> <p>2016.10～</p>	<p>開南大学・同大学院(台湾)客員教授として招聘され、「Japanology」の授業を集中で行った。要請されたテーマは「食と文学」である。台湾大学大学院においても、1 講話担当した。</p> <p>釜慶大学校人文社会学大学日語日文学部(韓国)において、「日本近現代小説特別講義」1 コマを担当した。</p> <p>台湾・韓国両国とも日本文学研究が盛んであり、学生に教えることにより、教えられるものが多かった。</p>
<p>7. グローバ・スタディーズ総合演習</p>	<p>2013.4～</p>	<p>いわゆるゼミナール形式の授業では、日本文化に関わる専任が一人しか</p>



いないために、できるだけ学生の興味に即して授業を展開している。アクティブ・ラーニングは、開講以来行っている。2015 年度からはサブ・カルチャーと捉えられているアニメ・ゆるキャラ・コスプレ・2.5 次元等を取りあげ、卒論指導も行った。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1.日本語表現 演習と発展【改訂版】	共著	2011.3	明治書院		大本泉・後藤康二・千葉正昭編 他5名	20-31 頁、 69 頁、 70-77 頁、 140-149 頁
2.小説の処方箋 小説にみる薬と症状 「奥田英朗『空中ブランコ』の薬」	共著	2011.9	鼎書房		大本泉・後藤康二・石出信正・北條博史・四ツ柳隆夫・千葉正昭編 他 16 名	209-217 頁
3.作家のごちそう帖	単著	2014.9	平凡社			1-144 頁
4.神経症と文学 「夏目漱石『道草』 ―〈神経衰弱〉そして〈孤独〉からの超克―」	共著	2014.9	鼎書房		大本泉・後藤康二・二木文明・北條博史・千葉正昭編 他 19 名	7-21 頁
[論文]						
1.関東大震災と近代文学 ―芥川龍之介と正宗白鳥を中心として―	単著	2013.1	仙台白百合女子大学紀要 第17号			36-45 頁

[その他]						
1. 女性と原子力発電	単著	2012.3	日本ペンクラブ・シンポジウム 「女性と原子力発電」			パンフレット
2. 永井荷風『断腸亭日乗』に描かれた「自炊」とく 外食>	単著	2012.6	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 6 号			14-17 頁
3. 甘い香りのネバーランド 正岡子規の「うまい物を 喰ふ」ことの生	単著	2012.7	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 7 号			14-17 頁
4. 大正時代のスイート男子 芥川龍之介	単著	2012.8	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 8 号			20-24 頁
5. 夏目漱石の「何か喰いたい」	単著	2012.9	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 9 号			18-22 頁
6. 三島由紀夫の最後の晩餐	単著	2012.10	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 10 号			18-22 頁
7. 「パッパ」としての森鷗外の料理		2012.11	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 11 号			18-22 頁
8. 「いのち」の<食> 岡本かの子	単著	2012.12	東京有名百味会「百味」第 55 巻第 12 号			18-22 頁
9. 贅沢なく粗食> 宮澤賢治	単著	2013.1	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 1 号			18-23 頁
10. 太宰治にとっての津軽の味	単著	2013.2	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 2 号			18-23 頁
11. ロンドンと東京。	単著	2013.2	「東京人」第 28 巻第 2 号  東京有名百味会「百味」第 56	都市出版		7 頁  18-23 頁

12. .食と色彩 虫喰い好きだった志賀直哉	単著	2013.3	巻第3号			18-23 頁
13. <情>を生きる 与謝野晶子の食と生	単著	2013.4	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 4 号			
14. 忘れえぬ言の葉(20)「乾燥しなさい?!」	単著	2013.4	日本語検定HP			18-24 頁
15. 「う」の抽斗 向田邦子	単著	2013.5	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 5 号			
16. 忘れえぬ言の葉(21)「天ぷら」	単著	2013.6	日本語検定HP			18-23 頁
17. .南方熊楠のあんパンと味噌汁	単著	2013. 6	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 6 号			
18. 日本近代文学会東北支部会編『東北近代文学 事典』 「石川巖」「五十公野清一」「伊東信」「大竹弧悠」 「大竹新助」	単著	2013. 6	勉誠出版			35 頁、46 頁、 54 頁、96 頁
19. 忘れえぬ言の葉(21)「何か食ひたい」	単著	2013.6	日本語検定HP			
20. .忘れえぬ言の葉(22)「天ぷら」	単著	2013. 6	日本語検定 HP			22-27 頁
21. 「私の味」を求めて 檀一雄の料理	単著	2013. 7	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 7 号			
22. 忘れえぬ言の葉(23)「宮城県の方言」	単著	2013. 7	日本語検定HP			
23. 忘れえぬ言の葉(24)「一日作さざれば一日食 らわず」	単著	2013. 8	日本語検定 HP			18-21 頁

24. .食べること・飲むことの文化 —吉田健一の求めたもの	単著	2013. 8	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 8 号			20-26 頁
25. .俎板と原稿 —林芙美子の場合	単著	2013. 9	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 9 号			
26. 忘れえぬ言の葉(24)「じえじえじえ」	単著	2013. 10	日本語検定HP			18-23 頁
27. 酒仙作家 葛西善蔵	単著	2013. 10	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 10 号			28-32 頁
28. 千回以上の晩飯 山田風太郎	単著	2013. 11	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 11 号			19-23 頁
29. <食>の探検家 開高健	単著	2013. 12	東京有名百味会「百味」第 56 巻第 12 号			
30. 編集後記	単著	2013. 12	「日本文学」(日本文学協会) Vol. 53			
31. 忘れえぬ言の葉(25)「のんのんのんのん」	単著	2014. 1	日本語検定HP			18-23 頁
32. <孤独>を呑み込む 川端康成	単著	2014. 1	東京有名百味会「百味」第 57 巻第 1 号			18-23 頁
33. 芸術としての<食> 谷崎潤一郎	単著	2014. 2	東京有名百味会「百味」第 57 巻第 2 号			18-23 頁
34. <食>の美学 池波正太郎	単著	2014.3	東京有名百味会「百味」第 57 巻第 4 号			18-23 頁
35. 忘れえぬ言の葉「すし」	単著	2014. 4	日本語検定HP			18-21 頁
36. .おひとりさまの贅沢貧乏暮らし 森茉莉	単著		東京有名百味会「百味」第 57			

37. 片道切符の「阿房列車」 内田百閒	单著	2014. 4	卷第4号		18-21頁
		2014.6	東京有名百味会「百味」第 57 卷第 6 号		
38. 樋口一葉 —お汁粉の記憶—	单著	2014.7	東京有名百味会「百味」第 57 卷第 7 号		14-18 頁
39. おでん	单著	2014. 7	日本語検定 HP		18-21 頁
40. 石川啄木 —いちごのジャムへの思い	单著	2014. 8	東京有名百味会「百味」第 57 卷第 8 号		16-22 頁
41. 食べるのがこわい 泉鏡花	单著	2014. 9	東京有名百味会「百味」第 57 卷第 9 号		18-22 頁
42. 幸田露伴の〈食〉へのこだわり	单著	2014. 10	東京有名百味会「百味」第 57 卷第 10 号		扉
43. 大会に向けて	单著	2014. 10	「日本文学」(日本文学協会) Vol. 63		12-17 頁
44. 台所の音をつくる 幸田文	单著	2014. 12	東京有名百味会「百味」第 57 卷第 12 号		20-24 頁
45. 酒と薬の日々 坂口安吾の虚無	单著	2015.1	東京有名百味会「百味」第 58 卷第 1 号		
46. 猫	单著	2015.1	日本語検定 HP		20-24 頁
47. 故郷を食べる 島崎藤村	单著	2015.2	東京有名百味会「百味」第 58 卷第 2 号		28-33 頁
48. .<カタムチヨ>の舌 藤沢周平	单著	2015.4	東京有名百味会「百味」第 58		

49. 教科書と文学	单著	2015. 4	卷第 4 号 「日本文学」(日本文学協会) Vol. 69		扉文
50. 作家とたべもの	单著	2015.5	仙台白百合短期大学・女子 大学栄養士同窓会「ゆりの 会」		28-33 頁
51. <カタムチヨ>の舌 藤沢周平	单著	2015.6	東京有名百味会「百味」第 58 巻第 6 号		20-24 頁
52. 美食の先駆者 北大路魯山人	单著	2015.7	東京有名百味会「百味」 第 58 巻第 7 号		19-23 頁
53. 横光利一 —御飯と創作—	单著	2015.8	東京有名百味会「百味」 第 58 巻第 8 号		19-23 頁
54. 湯豆腐やいのちのはてのうすあかり 久保田万太郎	单著	2015. 9	東京有名百味会「百味」 第 58 巻第 9 号		19-24 頁
55. 「聖なる無頼」派詩人 中原中也	单著	2015.10	東京有名百味会「百味」 第 58 巻第 10 号		16-20 頁
56. 金子光晴の旅と人生 たべるために生きるのだ	单著	2015.11	東京有名百味会「百味」 第 58 巻第 11 号		16-20 頁
57. 食から生れる芸術 高村光太郎の場合	单著	2015.12	東京有名百味会「百味」 第 58 巻第 12 号		34-39 頁
58. うつし世はゆめ 夜の夢こそまこと 江戸川乱歩	单著	2016.1	東京有名百味会「百味」 第 59 巻第 1 号		65-71 頁
59. 編集報告[近代部門](学会動向)	单著		「日本文学」(日本文学協会)		

60. 佐藤春夫の〈食〉へのこだわり	单著	2016.2	Vol. 79		34-39 頁
		2016.2	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 2 号		19-24 頁
61. 「食」の記憶 武田百合子の場合	单著	2016.4	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 4 号		28-31 頁
62. ホッコリとした玉露を好んだ 尾崎紅葉	单著	2016.5	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 5 号		20-24 頁
63. 手作りがごちそう 宇野千代	单著	2016. 6	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 6 号		32-36 頁
64. 「残り物」が一番 稲垣足穂	单著	2016. 7	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 7 号		32-37 頁
65. 酸っぱい「葡萄」 有島武郎	单著	2016.8	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 8 号		30-35 頁
66. 玄米食の実践者 平塚らいてう	单著	2016.9	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 9 号		32-36 頁
67. 煙草・酒・飴を好んだ 魯迅	单著	2016.10	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 10 号		32-35 頁
68. 旅と酒を愛した歌人 若山牧水	单著	2016.11	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 11 号		20-24 頁
69. 山口瞳の〈食〉へのこだわり	单著	2016.12	東京有名百味会「百味」 第 59 卷第 12 号		21-25 頁
70. 「わが酒史」の人生 獅子文六	单著	2017.1	東京有名百味会「百味」 第 60 卷第 1 号		

71. 最高最上のものを探し求めて 小林秀雄	単著	2017. 2	東京有名百味会「百味」 第60巻第2号			21-26 頁
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監訳書の場合)	該当頁数
なし						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1.食と文学	2010.10	上智大学共生学研究会(於 上智大学)
2.真山青果『南小泉村』—新たなる視角を求めて— (シンポジウム<特集/再発見・真山青果>)	2011.8	日本近代文学会北海道・東北地区合同研究集会青森大会 (於 ハーネル仙台 4階あおば)
3.The Great Kanto Earthquake and Modern Japanese Literature —Focusing on the Writings of Akutagawa Ryunosuke and Masamune Hakucho— (Literature and Disaster in Japan: Reflections from History and the Present Day)	2012.3	Japan Foundation(国際交流基金)・University of London(ロンドン大 学)共催シンポジウム(於 The Japan Foundation London)
4 南木佳士『阿弥陀堂だより』	2012.6	神経症と文学研究会(於 仙台市青葉区中央市民センター)
5.夏目漱石『道草』論	2013.5	第26次東北亜細亜文化学会国際学術大会(於 開南大学<台湾>)
6. 平塚らいてうの食育論	2016.10	第33次東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季聯合国際学 術大会(於 釜慶大学校<韓国>)



II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本近代文学会	運営委員(1986～1988)	1982.5
日本文学協会	評議委員(2011～2015) 運営委員(2012～2015)	1990.2
日本近代文学会東北支部会	会計監査(1995～1998) 運営委員・編集委員(2007～2011)	1995.5
日本ペンクラブ	女性作家委員(2007～現在に至る)	2002.2
東北アジア文化学会	紀要編集委員(2007～2008)	2005.6

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学	2016		日本の近代作家およびその文学における「食」の受容のありよう	

### 3. 特記事項

<p>(非常勤講師)</p> <p>東北学院大学非常勤講師(2010～2013)</p> <p>仙台高等専門学校非常勤講師(2015)</p> <p>独立行政法人国立病院機構仙台医療センター附属看護助産学校非常勤講師(2016～現在)</p> <p>(学外特別研修)</p> <p>英国のロンドン大学 Visiting Scholar (2011年10月から2012年3月)</p> <p>(高校生に対する模擬授業)</p> <p>本学における日本語・日本文学・日本語教育・日本文化に関する授業の一部を紹介して、学習意欲が高まるようにつとめた。</p>
--

2012.8 仙台白百合女子大学オープンキャンパス模擬授業「日本語を教えてください」

2012.11 仙台白百合学園高等学校「高三国際理解」

2013.6 一関修紅高校「『ごんぎつね』を読む」

(公開講座)

2013.12 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座「作家と食べ物」①②(2日間)

2015.1 2014年度仙台白百合女子大学オンキャンパス社会人講座「作家は何を食べてきたのか」①②(2日間)

(講演)

2014.11 原町成人大学講座(南相馬市原町生涯学習センター) 作家と食べもの ―夏目漱石と森鷗外を中心として―

2015.5 仙台白百合短期大学・女子大学・栄養士同窓会「ゆりの会」 作家とたべもの

2016.11 歯と健康をまもる仙台市民の会 特別講演会講師 演題 作家と食べもの ―太宰治と永井荷風を中心に― (於宮城県歯科医師会館)

(ボランティア)

東日本大震災後、学生を引率してボランティア活動をした。

① 2011.7 ボランティア活動として市立釧路図書館主催「被災地の子ども達支援プロジェクトくしろ」にて集められた絵本・児童書を届けた。(仙台市立東六郷小学校・大郷保育園等計400冊)

② 2012.8 福島小高区PTA親の会からの要請により、仮設住宅にいる小学生の勉強・遊びの補助をするボランティア学生を募り、送迎した。

(学内運営)

2012～2013 大学広報誌「リスブラン」の編集委員の責任者として、学生に関する記事を中心とする改革をした。

2013～2014 ハラスメント防止・対策委員会の委員長としてリーフレット作成、研修の企画・立案に参画した。

2016 学生部長として、学生委員・学生課・キャリア支援課をとりまとめた。

(海外引率・巡視)

2013.11 釜慶大学校(韓国・釜山)にて日本語教育実習

2014.2 グローバル・スタディーズ学科「異文化体験」にて台湾まで引率。開南大学・静宜大学と交流した。

2014.9 山西大学商務学院(中国・山西省)にて日本語教育実習

2016.10 釜慶大学校(韓国・釜山)にて日本語教育実習

(招聘)

2016.3 開南大学・大学院客員教授。台湾大学大学院講話(3月集中「Japanology」)

2016.10 釜慶大学校大淵キャンパス人文社会部日語・日文学科「日本近現代小説 特別講義」

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	カケン 賈 軍	職 名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 博士( 経済学 ) (大学名) 立正大学 (取得年月) 2003年3月
-------------	------------	-------------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
レジュメと PowerPoint による授業	2007.4～	「生活と経済」の授業において、身近な生活現象を取り上げて作成したレジュメを配布し、それをテキストとして活用している。
原子力発電所見学の実施	2008.2	3 年次～4 年次のゼミ生を対象に、東北電力女川原子力発電所を見学した。原子力は少ない燃料で大量の電気を作ることができ、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出せず、またエネルギーセキュリティ確保のためにも非常に有効であることを体感させた。
中国語検定 4 級合格者 3 名、準 4 級合格者 6 名	2016.6	中国語検定試験に対応できる語学力を養成するため、集中トレーニングを行い、DVD 教材等を使用し、生の中国語に触れることで聴解力を強化した。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

[著書]						
1. 「中国の SOx 排出量とエネルギー経済の課題」古賀弘義編著『日本産業と中国経済の新世紀』	共著	2004.3	唯学書房	古賀弘義他 18名		245-258 頁
2. 「山西省における公共財政システムの建設に関する研究」張改枝・原玉廷編著『山西経済問題研究』	共著	2009.4	山西経済出版社	王效梅・賈軍		256-268 頁
3. 「山西省における大学生の就業の財政支援策に関する研究」趙満華・楊素青編著『山西民生—労働就業と収入分配の研究』	共著	2011.7	経済科学出版社	賈軍・王效梅		58-69 頁
4. 「転換期における山西省地方財政の役割に関する研究」張改枝編著『転換期に迎える山西省の持続可能な経済発展』	共著	2012.3	中国財政経済出版社	賈軍・王效梅		44-50 頁
[論文]						
1. 「中国における二酸化硫黄抑制政策の基礎的検討—山西省の火力発電所に関する脱硫装置普及の課題」	単著	2006.2	仙台白百合女子大学紀要 第 10 号			41-52 頁
2. 「黄河流域における持続的成長の可能性—水資源確保に関する提言」	共著	2009.9	実践経営学研究 No.1	賈軍・浅野浩子		39-47 頁
3. 「黄河流域における水資源の需給と今後の課題」	共著	2010.9	実践経営学研究 No.2	賈軍・浅野浩子		13-18 頁
4. 「中国の石炭産業による環境汚染とその対策—SO2 排出量を中心に」	共著	2013.1	仙台白百合女子大学紀要 第 17 号	賈軍・浅野浩子		189-194 頁
5. 中国における「PM2.5 問題」の現状とその対策	単著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 第 19 号			55-64 頁
「その他」						
「大きな政府による国有企業の躍進と民間企業の衰退」	共著	2011.1	合作経済と科学技術第 408 期	賈軍・王效珍		100-101 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 黄河流域における持続的成長の可能性—水資源確保に関する提言	2009年9月	(実践経営学会・第52回全国大会)
2. 黄河流域における水資源の需給と今後の課題	2010年9月	(実践経営学会・第53回全国大会)
3. 中国の石炭産業による環境汚染とその対策—SO2排出量を中心に	2012年7月	(実践経営学会・第55回全国大会)
4. 中国のエネルギー事情とPM2.5の問題に関する研究	2013年11月	(実践経営学会・第13回東北支部会)
5. 中国における自動車排気ガス起因による大気汚染PM2.5の問題について	2014年7月	(実践経営学会・第14回東北支部会)
6. 中国における「PM2.5問題」の現状とその対策	2014年8月	(実践経営学会・第57回全国会)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本マネジメント学会	会員	2013年4月～現在に至る
アジア経営学会	会員	2003年4月～現在に至る
東アジア産業研究会	会員	2000年4月～現在に至る
実践経営学会	会員	2009年4月～現在に至る

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

--

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	タカハシ イズミ 高橋 泉	職名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 博士(文学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 2005年3月
------------	------------------	------------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1.『保健医療福祉の社会学』を共著で出版	1998.3	保健医療福祉系学生のための教科書、参考書として出版された。
2.「高齢者教育の意義と課題」を雑誌に発表	1999.1	高齢者教育の方法と実践について論じた。
3.『新版生活問題の社会学』を共著で出版	2001.4	生活問題を社会的に学ぶための教科書、参考書として出版された。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共著者名(共著の場合)	編者名と当該執筆者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 海と島の暮らし—沿海諸地域の文化変化—	共著	2002.3	雄山閣	田中宣一 他 15名		244-262 頁 382-391 頁 全 231 頁
2. 地域社会と「近代化」—柳田国男主導「山村調査」「海村調査」の追跡調査から—	単著	2005.7	まほろば書房 (博士論文の出版)			
3. 地域・家族・福祉の現在	共著	2008.3	まほろば書房	田中滋子 他 11名		69-80 頁
4. 神・人・自然—民俗的世界の相貌—	共著	2010.2	慶友社 (担当箇所は論文 5 を加筆・修正しまとめた)	田中宣一 他 23名		235-252 頁
5. 沖縄宮古島下地民俗誌 1974-1976 フィールドワークの記録	単著	2011.2	まほろば書房			全 293 頁

6.韓・中・日 人口動向と人口戦略	共著	2013	KIHASA 韓国(韓国語)	Lee Samsik 他		該当頁不特定
7.交響する空間と場所Ⅱ 創られた都市空間	共著	2015.1	法政大学出版局	堀田泉他 8 名		123-161 頁
[論文]						
1.地域社会と宗教(二)―大分県北海部郡佐賀関町の事例―	単著	2001.3	民俗学研究所紀要第 25 集 成城大学民俗学研究所			89-113 頁
2.地域社会と近代化―分析のための視点と方法―	単著	2003.1	仙台白百合女子大学紀要 第 7 号			1-14 頁
3.地域社会と「近代化」―「山村調査」「海村調査」の追跡調査研究対象地を中心とした比較研究―(博士論文)	単著	2005.3	東北大学			全 220 頁
4.高齢者の死生観解明に向けて―日本の民俗にみる死生観からの考察	共著	2008.3	人間の発達 仙台白百合女子大学人間 発達研究センター紀要第 3 号	宮崎正美		23-29 頁
5.恐れと親しさ―先祖観からみた死生観―	単著	2009.10	人間の発達 仙台白百合女子大学人間 発達研究センター紀要第 5 号			47-54 頁
[調査報告書等]						
1. 東北都市事典	共著	2004.3	東北都市学会			29-30 頁
2. 祖父江孝男著『文化人類学と私―その流れをふりかえる―』	単著	2005.12	文化人類学日本文化人類 学会 70-3			437 頁
3. 平井芽阿里著 宮古の神々と聖なる森	単著	2013.5	日本民俗学日本民俗学会 274			73 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ		発表年月(西暦)	発表場所			
1. 真宗地帯の俗信—三国町と佐賀関町を比較して—		2005.10	日本民俗学会第 57 回年会			
2. 呪術の消滅と持続あるいは再生		2006.10	日本民俗学会第 58 回年会			
3. 日本における人口の変化と社会経済的インパクト		2013.9	KIHASA 韓国			
4. 高齢者の死生観に関する研究—日本・沖縄県・宮古島市を中心として—		2015.6	2015 年山東省社会学会年会 中国			
5. 高齢者の死生観に関する研究—沖縄県・宮古島市を中心として—		2015.7	仙台白百合女子大学人間発達研究センター研究会			

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会学会		1981.4
日本文化人類学会(旧日本民族学会)		1974.4
日本民俗学会		1973.4
日本社会福祉学会		1989.4
日本老年社会科学会		1984.4
早稲田社会学会		1980.4
家族問題研究学会		1983.4

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
1. 日本学術振興会	1998~2000		青年・成人と高齢者間の相互理解促進のための実験教育プログラムの開発(研究分担者)	3,900,000



### 3. 特記事項

--

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ タカ ハシ サ ナエ 氏 名 高 橋 早 苗	職 名 教授 人間学部 グローバルスタディーズ学科	取 得 学 位 博士(教育学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 1999年12月
--------------------------------	---------------------------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・学修支援センターでの自主ゼミ・講座の開催	2015年	学修支援センターで、2つの勉強会(大学院進学希望者向けの英語力強化ゼミ、就職を意識した基礎力向上ゼミ)を主催している。
・東北地方をフィールドとしたアクティブ・ラーニング	2011年度～ 現在	3・11発生以降、東日本大震災からの復興をテーマとして、継続的に学生の共同研究および個人研究を指導している。 社会学のゼミとして、震災についてのインタビュー調査の実施や、復興支援に関わる諸団体の調査を行っている。時間の経過とともに復興をめぐる課題も変化してきており、今後も継続的に担当する授業やゼミでの指導に取り組んでいく。

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 新版キーワード地域社会学	共著	2011.5	ハーベスト社		地域社会学会編	140-141 頁
2. 都市のリアル: 都市を語る現在形	共著	2013.7	有斐閣		吉原直樹・近森高明 編	29-46 頁
3. 交響する空間と場所 1: 開かれた都市空間	共著	2015.1	法政大学出版局		吉原直樹・堀田泉編	129-164 頁
[論文]						
4. フランスにおける暴動: 都市暴力、若者、セキュリティ政策	共著	2006.3	山形大学法学会 『法政論叢』36号	今野健一		57-77 頁
5. ニューヨークにおける犯罪の減少と秩序維持ポ リシング	共著	2008.2	『山形大学紀要(社会科学)』 38号	今野健一		37-58 頁
6. ロンドン暴動の研究	共著	2012.6	『山形大学紀要(社会科学)』 43号	今野健一		33-45 頁

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会学会 東北社会学会 地域社会学会 東北都市学会		1990 1990 1992 1998

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
文部科学省	2012～2014年	科学研究費:基盤研究(C)	東日本大震災被災者の生活再建に関する調査研究(代表)	
	2015～2017年	科学研究費:基盤研究(C)	被災地のまちづくりと生活再建に関する調査研究(代表)	
	2015～2017年	科学研究費:基盤研究(C)	9・11後のニューヨーク:犯罪予防の刑事司法・都市再開発・市民的自由(分担)	

3. 特記事項

--

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	カトウ ミキ 加藤 美紀	職 名 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 (大学名) 博士(教育学) 上智大学 (取得年月) 2013年3月
-------------	-----------------	-----------------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 授業内容・方法の工夫 (1) 講義「キリスト教学 I A・I B」	2011.4～現在	① 学生が自己省察力を身に付けられるように、毎時間の講義の始めに、宗教音楽を聴きながら立腰により瞑想する時間を設けている。 ② 学生が聖書に親しむことができるように、毎時間、聖書の一節を板書して解説するとともに、各自聖書を手に取り開いて読む時間を設けている。 ③ 学生が同世代の仲間の考え方や感じ方を共有できるように、毎時間2名の学生に「感動したエピソード」についてスピーチさせている。 ④ 学生がイエス・キリストの福音を各自の生き方と結びつけられるように、現代世界の諸問題に関する DVD 視聴を取り入れている。 ⑤ 学生が授業全体の流れを 1 枚のプリントでつかめるよう、キーワード穴埋め書き込み式のレジュメを毎時間作成し、活用させている。 ⑥ 学生の理解度を把握し、次回以降の講義内容を調整できるように、学生から毎時間リアクション・ペーパーを提出させ、入念に検討している。 ……結果として、学生からの授業評価は大変良好である。
(2) 講義「教育学概論」	2013.4～現在	① 学生が教育学の概念を整理して理解できるように、毎時間パワーポイント資料を作成し、視覚的に訴える講義を実践している。 ② 学生が自らの教育経験の意味を理解できるように、毎時間2名の学生に「心に残る先生」についてスピーチさせている。 ③ 学生の問題意識を喚起するために、毎時間頻繁に発問し、多くの学生に発言させながら対話形式で講義を進行している。 ④ 学生が世界各国の教育事情について具体的に理解できるように、関連する適切な DVD 教材の視聴を毎時間取り入れている。 ⑤ 学生の理解度を把握し、次回以降の講義内容を調整することをねらいとして、毎時間リアクション・ペーパーを提出させている。 ……結果として、学生は興味をもって意欲的に取り組んでいる。

(3) 講義「キリスト教と教育」	2016.9～現在	カトリック大学でこどもと教育について 4 年間学んできたことの集大成として、本学部の目指す「人間の理解と援助」の具体像をキリスト教的価値観で統合することを目指す講義である。聖書に通ずる教育思想を紹介して、自らの教育経験を総括する課題に取り組みさせる。こうして学生各自が理想とする教師・学校・授業・教育のイメージを構築できるように指導する。
(4) 輪講「教職実習演習(中高/栄養)」	2014.9～現在	5 回の授業を通して、自らの教育実習の経験を振り返りながら、学校で課題となっている不登校やいじめ、保護者対応、専門連携などについて、ケーススタディーの分析とロールプレイング等を実践し、生徒理解や学級経営能力を身につけ、教師としての力量形成を図る。
(5) 輪講「グローバル・スタディーズ基礎演習Ⅰ」	2013.4～現在	新入生への導入教育として、加藤はスタディ・スキルズ演習を担当する。具体的には、大学で学ぶために必要な技法として、ノートのとり方、レポートの書き方、情報収集の仕方、読書法、パワーポイントを使用した発表の仕方、などをグループワークの演習形式で身につける。
(6) 演習「グローバル・スタディーズ総合演習Ⅰ・Ⅱ」	2011.4～現在	「生きる意味」を見出すことをテーマとして、古今東西の幸福論、人生論、死生観を学び、人間の生き方について考える。特に、第二次世界大戦中の強制収容所体験を綴った『夜と霧』を講読し、著者の精神科医フランクルの心理学を検討する。一年間の演習を通して、各自の人生の課題を発見し、探求する方法を学ぶとともに、ゼミ生との討論を通して、自分の考えを発表する力を身につけ、自分を表現することを目指す。
(7) 演習「グローバル・スタディーズ総合演習Ⅲ・Ⅳ」	2011.4～現在	地球規模問題群を中心として、現代世界をめぐる諸問題についての理解を深め、解決の糸口を探るための手がかりとなる理論を学び、対処の可能性についてゼミ生と議論する。これにより、よりよい世界をつくるために人間は何ができるのか、そして、私は何ができるのか、自分なりの使命と希望を見出すことを目指す。併せて、受講生の問題意識に関連したテーマについて各自研究を進め、その成果をプレゼンテーションする。
(8) 卒業論文指導	2011.4～現在	各自が設定した研究課題について適切な方法で情報収集し、文献およびフィールドワーク調査を実施し、その結果についての的確に分析し、自らの考察を加えながら妥当な結論を導き出せるように、かつ、これらの過程を論文作法に則って表現できるように、適宜文献を紹介しながら、定期的に論文執筆を指導して、卒業論文完成に導く。
2. 資料集の執筆(共著)		
(1)「極限状況で実現する“生きる意味”」	2016.10	全国のカトリック学校の宗教科・倫理科の授業で使用する資料集『福音みつけた！—「宗教」「倫理」を考えるために—』高校編・中学編(日本カトリック教育学会編)2冊の記事の一部を執筆した。
(2)「愛の殉教者 聖コルベ神父」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表		
(1)国際 SPC 教育者大会(フィリピン・パッシング)における“The Education Showing the Hope and True Meaning of Life to Young People”の発表	2011.5	・SPC日本管区代表として、日本のカトリック学校における宗教教育と福音宣教の取り組みについてまとめた報告書が、震災による日本不参加のため、現地在住のシスターにより代読された。

(2)本学教職員 FD 研修会における「新しい授業方法:アクティブラーニングの紹介」の発表	2015.9	アクティブラーニング導入・ICT 活用の事例として、「キリスト教学」の授業実践について報告し、授業方法の検討課題を浮かび上がらせた。
4. ボランティア教育	2011.8	①函館白百合学園からのボランティア高校生 19 名を対象とした祈りの集いを 5 日間企画した。
	2011.11~12	②長崎純心女子大学からのボランティア大学生 16 名を対象とした祈りの集いを 4 週間にわたり企画した。
	2012.2	③南三陸町における瓦礫撤去のボランティアを学生会と共に企画し、本学全学科より参加者を募集して学生 52 名を引率した。
	2012.3	④⑤福島の小中学生と遊ぶ高大連携のボランティア「遊遊ランド」(春季・夏季)において、姉妹校高校生の参加を継続的にコーディネートし引率した。
	2012.8	
	2013.5	⑥南三陸町での瓦礫撤去・石巻での仮設住宅交流のボランティアを企画し、本学全学科より参加者を募集して学生 34 名を引率した。
	2013.6	⑦仙台白百合学園小中高120周年祭に本学ボランティア学生を引率し、「パウロ祭(被災地支援チャリティー)」を高校と共同実施した。
	2013.8	⑧高大・姉妹校連携のボランティア「遊遊ランド」をコーディネートした。
	2013.11	⑨山元町復興支援ボランティアを企画し、全学科学生 57 名を引率した。
	2014.2	⑩復興支援コンサートへの聖歌隊参加をコーディネートした。
	2015.2	⑪復興支援コンサートへの聖歌隊参加をコーディネートした。
	2015.3	⑫バチカン震災レクイエム・コンサートへの聖歌隊参加を企画した。
5. 宗教教育としての修道院招待	2011.12	①本学在校生・留学生・卒業生 8 名を修道院クリスマス会に招待した。
	2012.12	②本学在校生・留学生・卒業生 15 名を修道院クリスマス会に招待した。
	2013.12	③本学在校生・留学生・卒業生 15 名を修道院クリスマス会に招待した。
	2014.10	④祈りの集いを企画し修道院に在学学生 10 名を招待した。
	2014.12	⑤本学在校生・留学生・卒業生 24 名を修道院クリスマス会に招待した。
	2015.12	⑥本学在校生・留学生・卒業生 21 名を修道院クリスマス会に招待した。
	2016.12	⑦本学在校生・留学生・卒業生 25 名を修道院クリスマス会に招待した。
6. 海外研修引率	2012.2	①国際教養学科の1年次必修科目「異文化体験」のため、2名の教員と共に、学生 43 名を引率してフィリピン研修を実施した。
	2013.2	②国際教養学科の1年次必修科目「異文化体験」のため、2名の教員と共に、学生 44 名を引率してシンガポール研修を実施した。
	2014.2	③フィリピン・ボランティア研修の団長として学生 12 名を引率した。

7. オープンキャンパス	2015.3	④イタリア・フランス研修旅行の団長として学生 16 名を引率した。
	2016.3	⑤イタリア研修旅行の団長として参加者 22 名を引率した。
	2012.8	①グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2013.6	②グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2014.6	③グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2015.6	④グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2016.4	⑤グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2016.11	⑥オープニング企画「カトリック大学と Xmas」を担当した。
2017.4	⑦オープニング企画「白百合について知ろう！」を担当した。	
2017.6	⑧グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。	
8. 高校への出張授業	2012.12	仙台白百合学園高等学校の高3生対象教科「国際理解」にて出張授業「愛は地球を救う」を実施した。
9. 講話の印刷発表	2012.3	①「イエスとの出会いによって生まれる『私の福音物語』」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第 2 号(115-123 頁)掲載
	2013.3	②「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第 3 号(77-85 頁)掲載
	2014.3	③「フランクルと聖書の言葉」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第 4 号(47-53 頁)掲載
	2014.3	④「“生きる意味”を教えることはできるか」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第 18 号(31-67 頁)掲載
	2015.3	⑤「ヨセフと夢」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第 5 号(23-28 頁)掲載
	2016.3	⑥「人々はパワースポットに何を求めるのか」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第 6 号(68-75 頁)掲載
	2017.3	⑦「ベツレヘムの星に導かれて」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第 7 号(93-100 頁)掲載
	2017.3	⑧「一人ひとりのいのちが輝くために」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第 21 号(190-196 頁)掲載



## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文]						
1.「カトリック学校で育成するスピリチュアリティの特性—教会文書にみるニューエイジ評価に基づいて—」	単著	2011.3	『上智大学教育学論集』 第45号		上智大学総合人間科学部教育学科編	99—116頁
2.「女子高校生の自己物語にみる内的ファンタジー—学校教育における意味形成支援の観点から—」	単著	2011.3	『上智教育学研究』 第24号		上智大学教育学研究会編	58—78頁
3.「女子青年の語りにもみるスピリチュアリティ—生きる意味の探求を支える宗教教育の視点から—」	単著	2012.3	『教育思想』 第39号		東北教育哲学教育史学会編	75—96頁
4.「道徳教育を超えるスピリチュアリティ育成の可能性—『心の教育』との関連で—」	単著	2012.3	『上智教育学研究』 第25号		上智大学教育学研究会編	20—46頁
5.「意味形成の要素を活かす宗教教育—重要な他者と時間的展望に着目して—」	単著	2013.3	『上智大学教育学論集』 第47号		上智大学総合人間科学部教育学科編	53—68頁
6.「高校生のスピリチュアリティを育む教師の在り方—フランクフルト思想を手がかりとして—」	単著	2013.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第17号		仙台白百合女子大学編	61—75頁
7.「生きる意味の探求を支える宗教教育の在り方についての研究—カトリック学校における女子高校生のスピリチュアリティ育成を事例として—」	単著	2013.3	博士論文		上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻所蔵	1—303頁

8.「女子高校生のスピリチュアリティを育む教育実践 —カトリック学校の宗教科授業を事例として—」	単著	2014.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 18 号	仙台白百合女子大学 編	23—37 頁
9.「日常と超越とをつなぐスピリチュアリティの育成 —ヒルティの思想を手がかりとして—」	単著	2014.3	『 教 育 思 想 』 第 41 号	東北教育哲学教育史 学会編	33-54 頁
10.「カトリック学校の教師教育の現状と課題」	単著	2015.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 19 号	仙台白百合女子大学 編	115-133 頁
11.「高校生の自己物語を聖書の物語につなぐ 宗教教育」	単著	2016.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 20 号	仙台白百合女子大学 編	31—47 頁
12.「カトリック学校における魂の教育—内的ファンタ ジーとスピリチュアリティとの接点—」	単著	2016.3	『 教 育 思 想 』 第 43 号	東北教育哲学教育史 学会編	57-77 頁
13.「カトリック学校の女子高校生の生きる意味に 関する実態調査」	単著	2016.12	『 人 間 の 発 達 』 第 11 号	仙台白百合女子大学 人間発達研究センタ ー編	49-58 頁
14.「イエスの復活とカトリック教育」	単著	2017.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 21 号	仙台白百合女子大学 編	1-23 頁
[その他]					
1. 図書紹介:星野正道著『いのちへの答え —傷つきながらも生きる—』	単著	2014.8	『カトリック教育研究』 第 31 号	日本カトリック教育学 会編	98-99 頁
2. 書評:岩田靖夫著『極限の事態と人間の生の 意味—大災害の体験から—』	単著	2016.8	『カトリック教育研究』 第 33 号	日本カトリック教育学 会編	66-68 頁

3. 資料集「極限状況で実現する“生きる意味”」	共著	2016.10	『福音み～つけた！—「宗教」 「倫理」を考えるために—』 高校編		日本カトリック教育学 会編	66-69 頁
4. 資料集「愛の殉教者 聖コルベ神父」	共著	2016.10	『福音み～つけた！—「宗教」 「倫理」を考えるために—』 中学編		日本カトリック教育学 会編	28-29 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本カトリック教育学会		2002.4
東北教育哲学教育史学会		2005.4
日本質的心理学会		2005.4
教育哲学会		2013.4

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

#### 〔講話等の講師〕

- ・2008.6 東京女子大学OG研究会「れいの会」・講師 演題「物語論による生きる意味の教育」
- ・2012.9 日本カトリック教育学会第36回全国大会・自由研究発表第1セッション司会
- ・2013.2 本学カトリック研究所主催2012年度第3回研究会・講師 演題「生きる意味を教えることはできるか」
- ・2014.1 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「生きる意味と聖書の物語」
- ・2014.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「聖書と現代人のスピリチュアリティ」
- ・2014.9 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味の教育」講師 第1回「フランクフルに学ぶスピリチュアリティの育成」
- ・2014.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味の教育」講師 第2回「自己物語の創造と生きる意味の発見」
- ・2015.1 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「エニアグラムとイエスの9つの顔」
- ・2015.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「フランクフルの思想と生きる意味」
- ・2015.9 本学教職員合同FD研修会・講師 演題「新しい授業方法:アクティブラーニングの紹介」
- ・2015.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「フランクフルの思想—生きる意味を求めて—」講師 第1回「生きる意味への闘い」
- ・2015.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「フランクフルの思想—生きる意味を求めて—」講師 第2回「ロゴセラピーと<魂への配慮>」
- ・2015.12 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「ユングのタイプ理論と自己実現」
- ・2016.6 本学人間発達研究センター主催第5回研究会・講師 演題「“生きる意味”の教育を目指して」
- ・2016.10 仙台白百合学園高等学校修養会・講師 演題「平和—よりよい世界を築くために—」
- ・2017.1 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味と魂—フランクフルの思想から—」講師 第1回「ロゴセラピーと魂の癒し」
- ・2017.1 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味と魂—フランクフルの思想から—」講師 第2回「現代人の救いとスピリチュアリティ」
- ・2017.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「日本人の死生観と復活のイエス」
- ・2017.7 光が丘スペルマン病院ボランティア養成講座・講師 演題「生きること、生かされていることの意味を問う」

#### 〔大学管理運営上の実績〕

- ・2014.4～現在 宗教委員会委員長
- ・2014.4～現在 カトリック研究所所長

#### 〔学外の活動〕

- ・2013.4～現在 カトリック大学キリスト教文化研究所協議会会計監査

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ クマ ガイ ケン ジ 氏 名 熊 谷 健 二	職 名 准教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取 得 学 位 修士(理学) (大学名) 広島大学 (取得年月) 1993年3月
--------------------------------	--------------------------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 表計算ソフト操作法の動画コンテンツの作成	2003.4	表計算ソフトウェアの操作方法を動画にし、Web ページから閲覧できるようにした。
2. 授業ビデオの学内ネットワーク配信	2004.10	授業をビデオで撮影し、学内ネットワークを介して、学生が授業後にホームページから視聴することができるようにした。
3. 学習管理システム(LMS)を利用した e ラーニングの実施	2006.10	LMS を利用して出席登録、教材提示・配付、課題提出、課題へのコメント提示などを行った。
4. 掲示板を利用した学生作品相互評価の実施	2007.10	LMS の掲示板を利用して学生が制作した作品をお互いに評価しあうことを行った。
5. アルゴリズム理解のためのアニメーションの作成	2008.4	プログラミングに必要なアルゴリズムを理解するためのアニメーションを作成した。
6. 手書き説明入り PowerPoint スライド画像の公開	2010.12	授業中に使用した手書き説明入りの PowerPoint スライド画像を、学生の事後学習の参考のために公開した。

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] [論文]						
1. アハ体験の記憶における効果の検討	共著	2007.3	人間の発達 第2号	大道直人 他3名		49-58 頁
2. ヘブライ語の学習過程における文字と単語の記憶成績の変化	共著	2008.3	人間の発達 第3号	大道直人 渡邊兼行		55-63 頁
3. 漢字認知の視線解析	共著	2009.10	人間の発達 第5号	大道直人 渡邊兼行		37-46 頁
4. Moodle による e-testing 学習支援システムの試行 - 社会福祉士国家試験対策システムを中心に -	共著	2010.3	仙台白百合女子大学紀要 第14号	嘉村藍 他3名		101-114 頁
5. 書道家と非書道家の漢字認知における視線の比較 - 同一漢字のくずしの効果 -	共著	2011.2	仙台白百合女子大学紀要 第15号	大道直人 他3名		13-28 頁
6. Moodle による e-testing 学習支援システムの試行(2) - 社会福祉士国家試験対策システムを中心に -	共著	2012.1	仙台白百合女子大学紀要 第16号	嘉村藍 他3名		79-102 頁
7. e-learning による学年別社会福祉士国家試験対策システムの試行	共著	2013.3	人間の発達 第8号	嘉村藍 他3名		33-47 頁
8. 視線追尾実験による漢字認知過程の研究	共著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 第19号	大道直人 他3名		65-83 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本物理学会 情報処理学会 日本教育工学会		1993.6～2009.3 2000.12～ 2006.1～

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

2004.4～2016.3 情報システム管理室長
2004.4～ TOPIC 仙台白百合女子大学ネットワーク運用責任者
2004.4～ JPNIC 仙台白百合女子大学ネットワーク運用責任者
2005.4～2008.3 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター附属仙台看護助産学校 非常勤講師

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ ヤマダ メグミ 氏 名 山田 恵	職 名 准教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学 科	取 得 学 位 博士(国際文化) (大学名) 東北大学大学院 (取得年月) 2006年3月
--------------------------	------------------------------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 2. ・マイクロソフトパワーポイント等を用いた教材作成と活用	2010.4～現在	「アメリカの歴史と文化Ⅰ」「アメリカの歴史と文化Ⅱ」「アメリカの文学」といった講義科目においては、映像や写真を組み入れた独自の教材をパワーポイントで作成し、活用している。
3. 作成した教科書、教材、参考書 ・『アメリカン・ロードの物語学』(金星堂)の出版	2015.3	アメリカ文学をロード・ナラティブの観点から紹介する『アメリカン・ロードの物語学』(金星堂)を共同で出版した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表・講演等 4. その他教育活動上特記すべき事項 ・海外提携校の開拓・留学協定の締結	2013.4～現在	国際交流センター長として海外提携校の開拓につとめ、「静宜大学」(台湾)、「開南大学」(台湾)、「エディンバラ大学」(英国)、「誠信女子大学」(韓国)との間で留学協定を結び、学生の教育機会の拡充のために尽力している。
・留学生の事前事後指導・滞在中のケア	2013.4～現在	国際交流センター長として、海外に留学する学生、ならびに提携校から本学に留学している学生の事前事後指導・滞在中のケア等を行っている。



・「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率(2014年度)	2015. 3	グローバル・スタディーズ学科の単位認定科目「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率者としてオーストラリアのゴールドコースト市での英語研修の事前指導・引率を行った。
・「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率(2015年度)	2015.9	グローバル・スタディーズ学科の単位認定科目「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率者としてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンタモニカ市での英語研修の企画・事前指導・引率を行った。
・「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率(2016年度)	2016.9	グローバル・スタディーズ学科の単位認定科目「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率者としてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンタモニカ市での英語研修の企画・事前指導・引率を行った。
・グローバル・スタディーズ学科「異文化体験」の引率(2016年度)	2017.3	グローバル・スタディーズ学科の単位認定科目「異文化体験」の引率者としてシンガポールでの文化体験研修の企画・事前指導・引率を行った。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文]						
チャールズ・ジョンソンの『夢見る者』におけるキング牧師像とフィクションの可能性	単著	2015.2	『仙台白百合女子大学紀要』 第19号(仙台白百合女子大学紀要)			91-101頁
自由のための新たなロードの物語 —チャールズ・ジョンソンの『牛追い物語』に示された東洋的「道」	単著	2015.3	『アメリカン・ロードの物語学』 (金星堂)			265-278頁

ジャーナ・リーの自伝に見るブラック・フェミニズムの萌芽	単著	2017.3	『仙台白百合女子大学紀要』第 21 号(仙台白百合女子大学)			25-33 頁
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共訳者名(共訳の場合)	監修者名と当該訳者数(監修訳書の場合)	該当頁数
『シグニファイイング・モンキー—もの騙る猿／アフロ・アメリカン文学批評理論—』	共訳	2009.12	南雲堂フェニックス	山田恵、他 9 名		353-381 頁

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
チャールズ・ジョンソンの『牛追い物語』—現代アフリカ系アメリカ作家のクロス・カルチュラル・ロード・ナラティブ	2012.3.28	日本女子大学文学部主催 学術交流企画公開ワークショップ「アメリカ文学における〈ロード〉の物語学

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
(国内) 日本アメリカ文学会	東北支部会計(2008.4~2012.3) 東北支部幹事(2010.4~2012.3) 東北支部編集委員(2012.4~2014.3) 東北支部事務局長(2015.3~2017.3) 本部大会準備委員(2017.4~現在)	1993
東北大学国際文化学会	総務(1999.7~2001.7)	1995
日本アメリカ学会		1997
東北アメリカ学会	事務局次長(2007.7~現在)	2000
多民族学会(MESA)		2006

日本英文学会 東北英文学会(日本英文学会東北支部)  (国外) MLA(Modern Language Association)	大会準備委員(2009.4~2011.3) 大会準備委員(2014.3~2016.3)	2009 2008   1998
--	--	------------------------------

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた 年度 (西暦)	助成プログラ ム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

<p>1. 非常勤講師 宮城学院女子大学非常勤講師(2007.4~2017.3)</p> <p>2. 公開講座・講演会講師          仙台西高等学校出張講義講師「多民族社会アメリカを理解するために」(2009.3.17)          仙台東高等学校模擬授業講師「ディズニーランドを通して見るアメリカーテーマパーク文化について考えようー」(2014.2.13)」</p>
---

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	クマ ガイ ハル コ 熊 谷 治 子	職 名 人間学部	助教 グローバルスタディーズ学科	取 得 学 位 (大学名)	博士(文学) 白百合女子大学 (取得年月) 2017年2月
-------------	-----------------------	-------------	---------------------	------------------	----------------------------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
英語 I・II (東北学院大学非常勤)	2007   2016	イギリス文化やアメリカ文化に関する英文を講読し、単語や読解に関する小テストを毎回行っている。英語をなぜ学ぶのか。英語をどのように学ぶのか。英語を学ぶことでどのように未来を豊かにできるのか。このような疑問を毎回投げかけることによって、学生の学習意欲の維持を狙っている。個別に、今年の英語学習計画・実践の具体的アドバイスも行っている。
入学前教育 (リメディアル英語)	2010   2016	2010年度より毎年、国際教養学科の入学前教育(英文法ドリル)の採点に取り組んできた。文法的なミスの箇所には説明を記し、重要構文については暗記するように指示をした。また、未記入の箇所には学習をうながすコメントをほどこした。手渡しする際に、一人一人に向けて、英語学習に関するアドバイス等を記した手紙も添付し、さらに在学中に英語関係の資格取得を勧めている。
英語 I・II(人間発達学科、健康栄養学科)	2012   2016	英語を専門分野としない学生に対して、学生の外国文化への興味を促すような映像等を授業中に紹介し、異文化理解を促した。音読やシャドーイングを取り入れて、英語に耳から親しむことも積極的に取り組んだ。健康栄養学科の授業では、英語での外国の食卓の説明や、人間発達学科の授業では、英語による子供向け絵本等を臨時教材として取り入れた。
English Tutorial I・II (グローバルスタディーズ学科)	2013   2017	将来、英語を使って、どのように社会貢献したいのか。各自がその答えを見いだして、自立した英語学習スタイルを確立するよう促している。毎回の授業で、単語テストをし、不合格になった学生には、レポート提出および学習指導を行なっている。英語の楽しさを伝える一方で、積極的に英語関係の資格取得を促す指導もしている。学生には、まず在学中に 2000 時間英語を学習する必要性とその成果の説明をする。その上で、実際、毎週、何時間どのような英語学習をしたのか報告させている。必要に応じて、自宅学習のための本、アプリ、その他映像資料の紹介等も行っている。

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 『英米文学の地平 - W.ワーズワスから日系アメリカ人作家まで』「ことばの対位法 - 『灰の水曜日』と『四つの四重奏曲』を中心として」	共著	2012.4	金星堂	田村一男他	田村一男 監修	99-115 頁
[論文] 「ある婦人の肖像」における「ある婦人」と「ショパン」——私通の「エンハーモニック転調」をめぐって		2016.11	T. S. Eliot Review No.27			83-98 頁
「エピグラフから読む「J.アルフレッド・プルフロクの恋歌」——「観察をめぐって」	単著	2016.2	仙台白百合女子大学 紀要 第 20 号			153-167 頁
「T. S. エリオット『灰の水曜日』の「音風景」——楽器、泉、階段、鳥をめぐって」	単著	2014.2	仙台白百合女子大学 紀要 第 18 号			91-105 頁
「モダンでクラシカルな音風景(サウンドスケープ)——『荒地』と『春の祭典』の「騒音(ノイズ)をめぐって」カトリック学術奨励金研究奨励賞受賞	単著	2012.12	『英文學研究』 (日本英文学会)第 89 巻			1-20 頁
「第三の性の仮面—『荒地』テイレシアス考	単著	2004.3	<i>Proceedings</i> 第 3 号 (東北英文学会)			14-19 頁

「 <i>Four Quartets</i> —非在の響き」	単著	2002.3	<i>Proceedings</i> 第1号 (東北英文学会)		14-20 頁
「 <i>Murder in the Cathedral</i> トーマスの越境—ドアのイメージを中心として—」	単著	2001.12	言語・文学研究センター論文集第2号(白百合女子大学言語・文学研究センター)		16-23 頁
「『荒地』の音楽的側面—ワーグナーのライトモチーフをめぐって」	単著	2000.12	言語・文学研究センター論文集第1号(白百合女子大学言語・文学研究センター)		27-36 頁
「『荒地』の音楽的側面—ワーグナーの楽劇との関連をめぐって」 第12回 ロゲンドルフ賞 受賞	単著	2000.10	<i>Soundings</i> 26号(サウンディングズ英語英文学会)		103-119 頁
「聞き手から語り手へ—“I don't hate it”のQuentin」	単著	1999.3	<i>SELLA</i> 28号(白百合女子大学英語英文学会)		77-85 頁
[調査報告] 学科企画「英語勉強会」	単著	2017.3	仙台白百合女子大学学修支援センター		10 頁
学科企画「英語勉強会」	単著	2016.3	仙台白百合女子大学学修支援センター		20 頁
学科企画「英語勉強会」	単著	2015.3	仙台白百合女子大学学修支援センター		10 頁
[要旨報告] 「都市の音風景(サウンドスケープ)— <i>The Waste Land</i> 雑音考」	単著	2003.1	『英文学研究』(日本英文学会) 第80巻第2号		179 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ		発表年月(西暦)	発表場所			
・「エピグラフから読む T.S.エリオット「ある婦人の肖像」—「ジュリエットの墓の雰囲 気」をめぐって」		2016.5	十七世紀英文学会全国大会(於 同志社大学)			
・「ジュリエットのカプリッチオー—T.S.エリオット「ある婦人の肖像」の私通をめぐって」		2016.3	十七世紀英文学会東北支部会(於 東北学院大学)			
・「「ある婦人の肖像」という音楽(の絵)」		2015.11	日本 T.S.エリオット協会全国大会(於 愛知学院大学)			
・「T.S.エリオットの詩における闇」						
・「「コルセット」をすてた詩人 T.S.エリオット—『荒地』における「聖なる騒音」をめぐって」		2014.3	英語圏文化・文学コロキウム 於:白百合女子大学			
・「黒い不協和音—T.S.エリオットのモダンでクラシカルな音風景」		2013.8	言語・文学センター、英語英文学研究室共催 於:白百合女子大学			
・「『荒地』における音と風景の交差点 — 騒音のライトモチーフを演出する舞台装置」		2013.2	英語圏文化・文学コロキウム、言語・文学センター共催 於:白百合女子大学			
・「テイレシアスは両性具有に生まれない、両性具有になる!？」		2010.11	日本 T.S.エリオット協会 第 23 回大会 於:尚綱学院大学			
・「都市の音風景(サウンドスケープ)— <i>The Waste Land</i> 雑音考」		2003.9	東北英文学会第 58 回大会 於:弘前大学			
			日本英文学会第 75 回大会 於:成蹊大学			

・「T.S.エリオット, <i>Four Quartets</i> 「沈黙の音楽」について」	2003.5	東北英文学会 第 56 回大会 於:宮城教育大学  <i>Soundings</i> (サウンディングズ英語英文学会)第 43 回研究発表会 於:昭和女子大学
・「 <i>Murder in the Cathedral</i> トーマスの越境—」	2001.9	
・「 <i>The Waste Land</i> の音楽的側面—ライトモチーフとしてのタロット・カード」	2001.5	
	1999.11	日本 T.S.エリオット協会 第 12 回大会 於:成蹊大学

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本T.S.エリオット協会		1997.11
日本アメリカ文学会		2000.10
東北英文学会		2000.10
サウンディングズ英語英文学会		2000.5
日本英文学会		2000.5
日本シェイクスピア協会		2012.12
日本比較文学会		2012.12

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

<p><b>講演会</b> 演題「「コルセット」をすてた詩人 T.S.エリオット—『荒地』における「聖なる騒音」をめぐる」 言語・文学センター、英語英文学研究室共催 2013.8 於 白百合女子大学</p> <p>カトリック学術奨励金研究奨励賞受賞 2012.6            実用英語技能検定準一級合格 2008.2            東北学院大学非常勤講師 2007.4～</p>
--



白百合女子大学非常勤講師 2001.4～2002.3

**ロゲンドルフ賞受賞 2001.5**

中学教員専修免許(英語) 1999.3

高校教員専修免許(英語) 1999.3